

開催期間:

2012 年 10 月 8 日

一回目の送付の際は文字は黒で 2 回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

40members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

名古屋市・名古屋市教育委員会・レゴブロック関連企業3社

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

US\$16,660

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

名古屋市内の小学校に通う小学生及び名古屋市に住み暮らす人々220万人

主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。

目的:

本事業は、次世代に、OMOIYARI を行動規範として、
まちづくりについてのビジョンや目標を持ってもらうことを目的としている。

これは、持続的発展する安定した地域社会を作ることにつながります。

究極的には世界平和が実現できる。

3 行程度 400 字以内

- ①名古屋市の世論調査で「現在まちづくりに参加している」という市民はわずか 4.8%
- ②まちづくりに参加する市民が少ないと、相互理解の機会がなく、地域の課題解決は出来ない。
- ③地域の課題解決にあたっては OMOIYARI を行動規範とすることが必要。
まちづくりについての課題を認識
他人の異なる価値観を相互理解
課題解決にむけての具体的な行動
- ④今後の名古屋市を担う次世代に、OMOIYARI を行動規範としてまちづくりに参加してもらいたい。
- ⑤その為には、次世代が地域開発について、他者との相互理解の機会を設け、今後のビジョンや目標もつ必要がある。

最初に目的、後半に背景説明を簡単に書いて下さい。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

<概要>

本事業は相互理解, コンパッション, なすべきをなすという, OMOIYARI のプロセスそのものである

JCI 名古屋は100名の次世代を集め青少年育成プログラムを3段階に分けて実施した。

① 学ぶ・考える

- ・地位開発の専門家をファシリテーター(プログラム進行の専門家)として協力を得た。
- ・次世代が JCI 名古屋の研究映像を基に地域の歴史・文化について学ぶ
- ・次世代が「市民が OMOIYARI を行動規範として生活する町」をテーマに地域の代表と魅力や問題点について議論する。地域開発についてのアイデアを得る。
- ・自らの理想とする地域の未来をイメージする機会を提供する。

② 具体化・表現する。

- ・次世代が同じコンセプトで自分の考える地域の未来についてレゴブロックで表現する。
- 次世代10人単位で全10チームを結成。
- ・JCI 名古屋のメンバーがチームのメンター(プログラム進行上の相談者)となりサポートする。
 - ・個々の作品をチーム内でプレゼンする。
 - ・個々のプレゼンに対してチーム内で議論する。
 - ・個々の作品のアイデアを組み合わせ、チームとして一つの作品を作る。
 - ・完成した作品のイメージ通りの地域を創造するために何をすべきかをチームで議論する
 - ・個々のアイデアを活用しながらチームで協働して共通する未来をクリエイトする。

③ 発信・実践する。

- ・全ての作品を市民 3000 人の集まるイベント会場に展示。
- ・次世代の保護者や来場者に対してプレゼン・意見交換。

全部で 400 字以上

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

結果をキチンと確認しないとココは書けません。
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

結果：

次世代が OMOIYARI を行動規範とする地域開発についてのビジョンや目標を持った。

①次世代が地域開発についてのビジョンや目標を持った。

②次世代がお互いのビジョンや目標を尊敬しながら議論する事で相互理解を確立した。

③次世代が上記相互理解のもと、共通のテーマの作品を共に制作する事で地域開発についての共通のビジョンを有するに至った(コンパッションを理解した)。

④次世代が作品のイメージする地域の実現に向けて議論する中で、「成すべき事を成す」ことの重要性を理解した。

① の理由

参加者100人の次世代が地域の専門家と議論する事で地域開発に関するアイデアを得て、ビジョンや目標を明確にできた。
それをレゴブロックの作品として表現する事ができた。

② の理由

作品制作を通じて、参加者の90%が「お互いの意見を理解し、尊重する事ができた」と回答した。

③の理由

作品制作を通じて、参加者の85%が「OMOIYARI を行動規範として生活するまち」というテーマに基づいた作品となったと回答した。

作品のコンセプトを「OMOIYARI を行動規範として生活するまち」として統一できた。

作品のタイトル例

「緑が多くきれいなまち」「事故のすくないまち」

④の理由

次世代が作品のイメージの実現に向けて何をすべきか議論した。

(例) 作品タイトル「緑が多くきれいなまち」

これに対する議論の内容。

「ごみを拾う」「みんなで花を植える」という意見が提示された。

(例) 作品タイトル「事故のすくないまち」

これに対する議論の内容。

「交通ルールを守る」「安全運転をする」という意見が提示された。

これらの手法を達成するために、「自らが出来る事を率先して行う」という結論に達した。

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

行動:

2012年

3月 事業企画

4月 他組織の事業見学・成功事例の検証

5月 地域開発について再考・有識者会議の開催

6月 コンテンツ(手法)の議論・確定

7月 JCI 名古屋メンバーによる実演検証。事業立案

8月 JCI 名古屋メンバーがメンター講習を受講

9月 参加者の募集・PR 活動開始

10月 事業開催

11月 お礼状の発送・協力企業と事後検証。今後の活動についての打ち合わせ。

全部で 200 字以上
2000 字以内程度

受付
主催者挨拶・趣旨説明
パート①開始
JCI 名古屋による地域研究映像発表
次世代と地域開発の専門家との議論
パート②開始
レゴブロックの使い方の講習
個人の作品制作
チーム結成(JCI 名古屋のメンバーがメンターとなる)
個々の作品発表・
議論する事によりそれぞれのアイデアを共有
アイデアを融合したチームでの作品制作
参加者同士の制作発表
パート③
イベント会場での展示
来場者にプレゼンテーション・意見交換
地域開発の専門家による総括

考察や推奨

事業のプログラムが相互理解→コンパッション→なすべきことをなすという OMOIYARI 運動のプロセスである。

- ①個人のイメージをレゴブロックで形にして表現するという方法で個人の内面・アイデア・価値観を引き出します。
- ②個々のアイデアを一つにまとめ共通のテーマで新たな作品を作る。
チーム内で自分とは違う視点・新たなアイデアを得て共に地域開発を考える。
そこからどのようなアクションを起こせるかを明確にできる
- ③レゴブロックという手法を介して議論する事で、相手の考えに興味を持ち理解しようとする気持ちが生まれる。
自分の考えを伝え相手から理解と協力を得るために努力することができる。
客観的に作品の表す意味を理解し異なる意見も理解できる事を学ぶ。
このことからチームに信頼関係が構築される。

<事業成功のプロセス>

言葉だけでは表現できない個人の考えるアイデアやイメージを形にする。



個人のアイデアやイメージをチームのメンバーと共有する。



個人のアイデアやイメージをチームのアイデアやイメージとして共有する。



チームで共有したアイデアやイメージを形にする。

このプロセスが協働である。

このプロセスの中で個人は異なる役割を果たしながら地域開発に貢献している事を実感する。

そして個人の価値や貢献を作品として可視化する事で、モチベーション高まる。

これにより個人の意識・行動が前向きに変化しポジティブチェンジする事ができます。

	<p><改善点> 10人でチームを結成した。 よって10のアイデアがあり、次世代がまとめることは困難であった。 全員のアイデアが活かされない作品もあった。</p> <p><改善方法> チームの人数を少なくして開催する。 JCI名古屋のメンバーがメンターとしての能力を高めサポートする。</p>
	<p><一番のポイント> 次世代同士が協働するプログラムとした事。 これによりポジティブチェンジし易くなった。</p> <p><次年度メンバーに伝えたい事> ・このプログラムの継続。 ・LOM内で活用し、地域のリーダーに必要な考え方・資質やスキルについて共通のイメージや目標を明確にする事。</p>

全部で200字以上	
	協力企業担当者より 「子供の成長に良い変化を与えたと思う。継続してほしい。」 「プログラムの有効性が証明された。JCIのメンバーの方はこのプログラムを他団体や他の地域に広めてほしい」とのコメントがありました。
	地方新聞に掲載(発行部数276万部) 地方テレビ局でのニュース報道(480万世帯視聴可能)